

かつらだより

学校教育アンケート(後期)

令和3年 2月
京都市立桂小学校
校長 梶 聰

学校教育目標『心豊かに 楽しく 学び続ける桂の子』を具現化するために、確かな学力の向上と豊かな心の育成に取り組んでいます。12月にご協力いただきました学校教育アンケートの結果をまとめましたので、お知らせします。ご多用の中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

今年度より、学校や家庭で大切にしたいことを児童・保護者・教職員がそれぞれ自らをふり返ることができる形式で実施しました。例えば、保護者アンケートでは「(児童が) ~できるように働きかけている」という表記になっています。

質問項目（児童の質問アンケートより）	児童の結果			
	よくできている	だいたいできている	あまりできていない	できていない
① 先生や友達の話を最後まで聞いている。	55.9%	40.4%	3.7%	0.0%
② 授業がよく分かる。	63.4%	32.0%	4.7%	0.0%
③ 臨時休校中や再開後も進んで家庭学習（宿題など）をしている。	67.9%	24.9%	5.9%	1.2%
④ 学校や家で20分以上読書をしている。	42.9%	27.6%	16.1%	13.4%
⑤ 自分から進んであいさつしている。	56.8%	31.4%	9.6%	2.2%
⑥ 学校の決まりや約束を守っている。	59.0%	37.3%	3.7%	0.0%
⑦ 学校が再開して楽しく過ごしている。	70.5%	22.0%	7.5%	0.0%
⑧ 友だちやまわりの人を大切にしている。	81.4%	17.4%	1.2%	0.0%
⑨ 早寝早起きをしている。	34.9%	35.2%	19.6%	10.3%
⑩ スポーツや外遊びで、身体を動かしている。	66.5%	18.9%	12.4%	2.2%
⑪ 学習計画表を見て準備ができている。	71.7%	24.2%	2.8%	1.2%
⑫ 学校の先生は、話しかけやすい。	52.2%	34.5%	10.2%	3.1%
⑬ PTA行事や地域の行事には、楽しみにしていることがある。	60.2%	20.5%	10.6%	8.7%

重要度の集計結果から

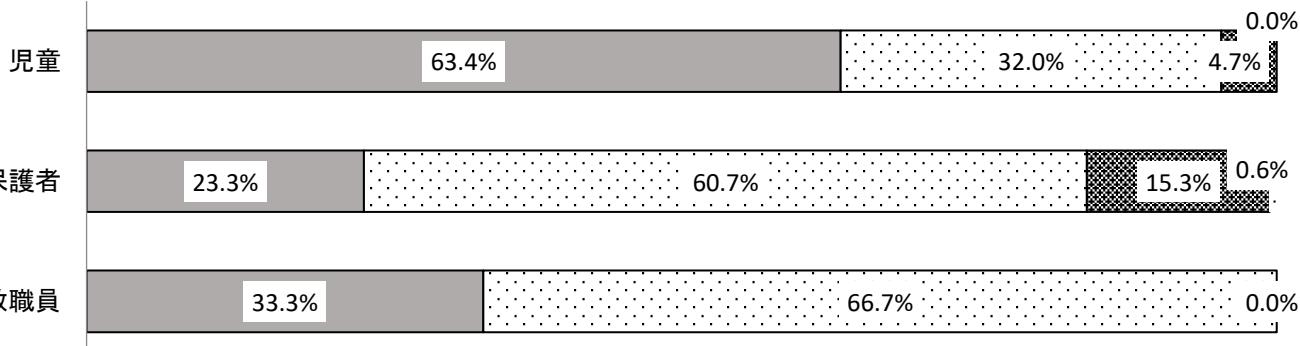
【保護者・教職員のみ】

「重要である」「やや重要である」を合わせた数値を『重要度』、「よくできている」「大体できている」を合わせた数値を『実現度』として集計結果を取り扱っています。保護者の方は、前期同様ほとんどの項目で95%以上の重要度となっていました。「特にあまり重要ではない」「重要ではない」の項目がほぼ0%に近い結果で、内容項目の重要性を意識していただいていることが分かります。特に友だちや対人関係の重要度がより重要であると意識していただいている。今後も学校と家庭とが協力して、児童のサポートをしっかりと続けていきたいと思っています。

実現度の集計結果から

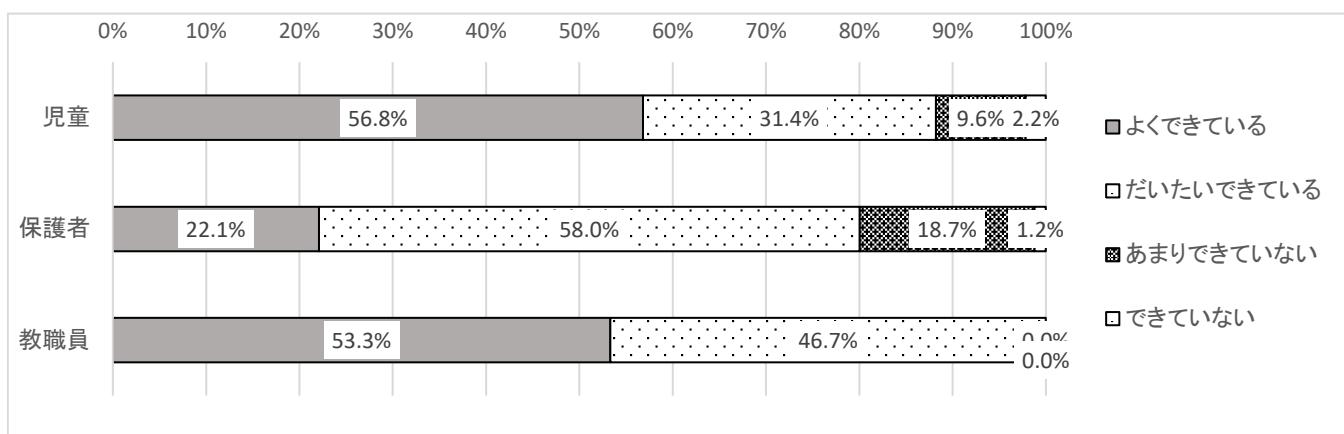
②授業がよく分かる。

□よくできている □だいたいできている □あまりできていない □できていない



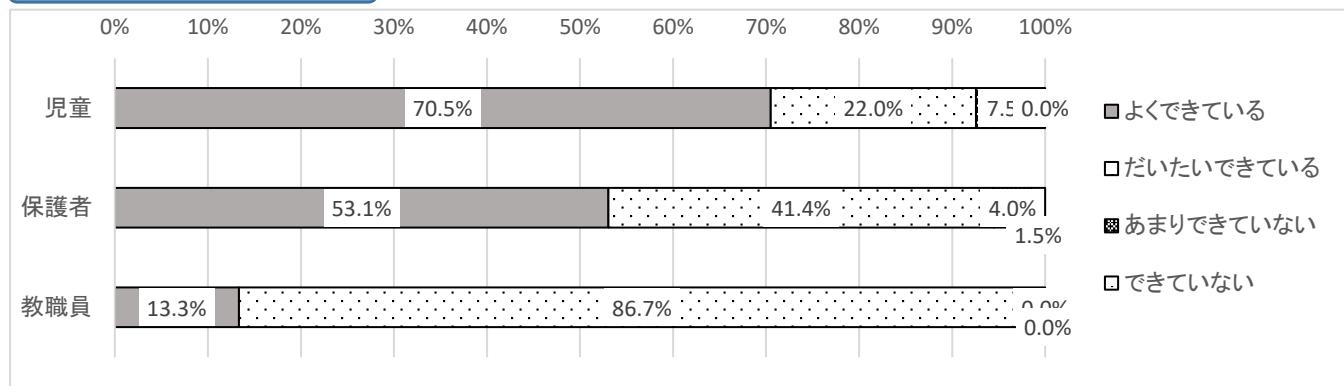
児童94.4%（よくできている約63.4%，だいたいできている約32.0% 以降，この順で表記）保護者84%（23.3%，60.7%），教職員100%（33.3%，66.7%）でした。児童の回答では「よくできている」が約6割強となっています。後期の結果は、数%下がっていますが、日々の取組を自分なりにふり返り、授業の理解度を客観的に捉えることができている結果だと考えます。分からぬところをそのままにせず、放課後の補習に残り、分かるまで取り組む児童が増えています。保護者の方も、テスト前や学習の様子によってお声かけをしていただいている様子が伺えます。①の先生や友達の話を最後まで聞いている児童は97%近くがよくできるだいたいできていると答えていることから授業に向かう姿勢はほぼ定着していると考えます。引き続き、わかる授業の実践を続け、確実に学力の定着に結び付けていきたいと思います。

⑤自分からすすんであいさつしている。



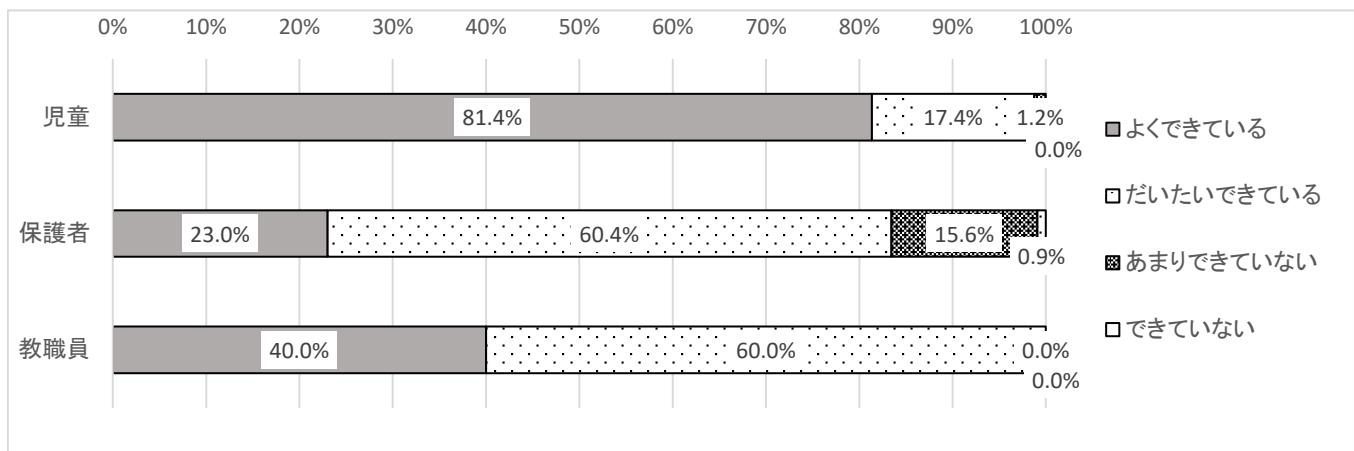
児童88.2%（56.8%，31.4%），保護者80.1%（22.1%，58.0%），教職員100%（53.3%，46.7%）でした。登校時、毎朝元気な声が聞こえています。地域・見守り隊・保護者の方々からあいさつをしていただくことも児童の意識につながっています。担任を始めとする教員や児童会からの声かけによって意識の持続ができます。しかし、10%のあまりできていないと回答している児童の中には、まだまだ顔なじみのない方へのあいさつに恥ずかしさを抱く児童もいます。前期に引き続き、あいさつをすることがたくさんの人とのよりよい関係につながることを知り、自然にあいさつができる子に、またあいさつをすることが気持ち良いと感じられるような環境づくりを進めたいと思います。毎月25日（休日の場合は後ろにずれる）の「にこにこの日」の取組や日々の地域・保護者のみなさんの見守り活動にも支えていただきながら持続できるようにしていきたいと思います。

⑦学校はたのしい。



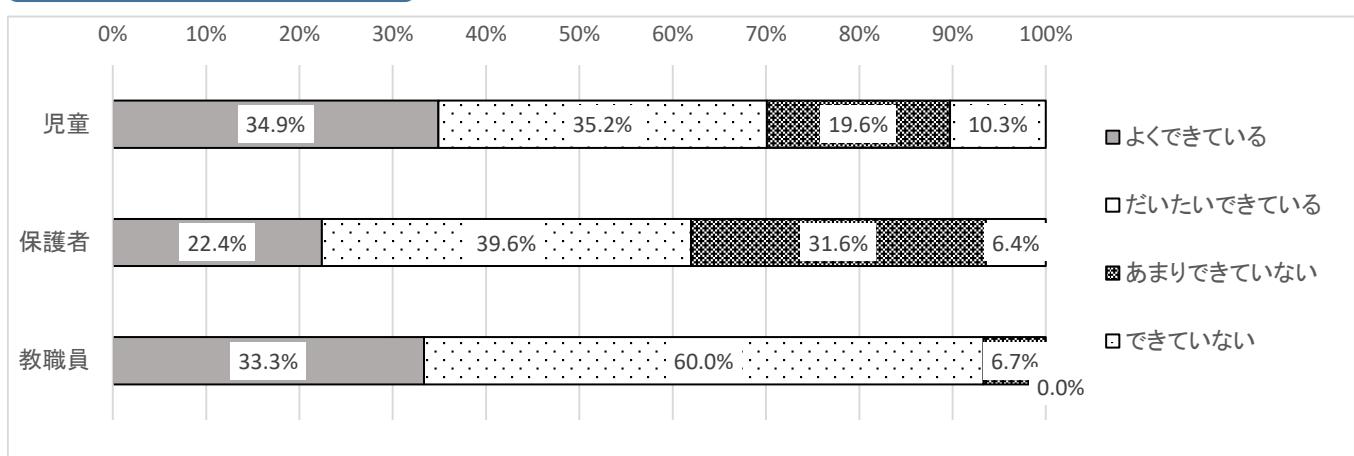
児童92.5%（70.5%，22.0%），保護者94.5%（53.1%，41.4%），教職員100%（13.3%，86.7%）でした。前期と比べると、0.5ポイント下がっていますが、友だち関係が出来てくると、自分の思いが友だちとのコミュニケーションの場が増えたことの結果とみています。時に、友だちともめてしまったり、喧嘩したりすることもあります。子ども同士の関わりの中には起こりうることです。解決すると仲良く過ごせている様子があるので、もめごとが起こったときは解決をすることの大切さについても支援していきたいと思います。それも含めて友だち関係をより良いものにしていけるよう教職員も支援を続けていきたいと思っています。学習が楽しいと思える学校経営を引き続き行なっていきます。

⑧友だちやまわりの人を大切にしている。



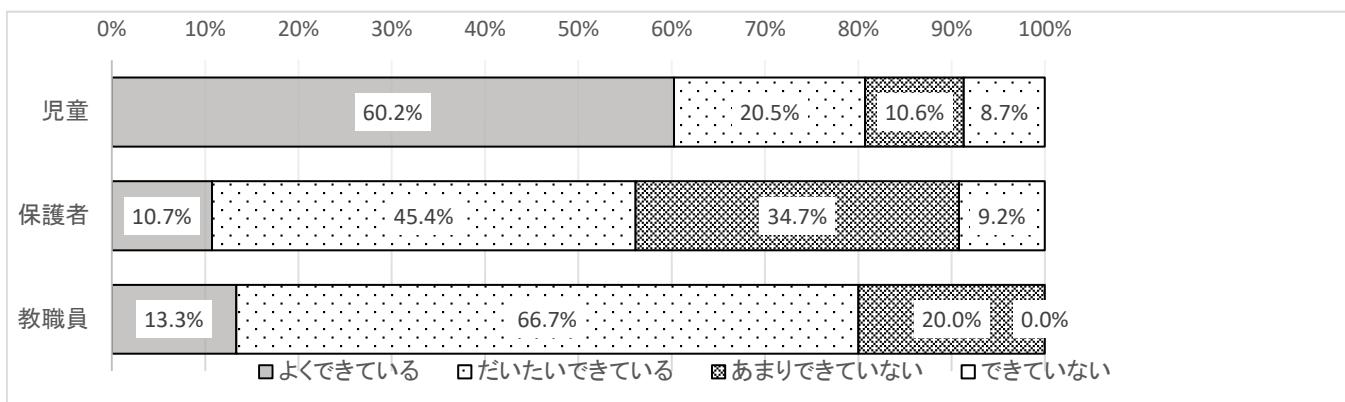
児童98.8%（81.4%, 17.4%）, 保護者83.4%（23%, 60.4%）, 教職員100%（40%, 60%）でした。児童は対人関係について、高い意識をもっていることが分かります。前期より保護者・教職員のポイントが増えています。児童の友だち関係について良好な関係が築けていることを感じていただいている表れだと思います。また、日々の学校での取り組みに加え各学年・学級でのお便りで学びをお知らせすることで保護者にもお伝えさせていただいていることにも目を通していると感じます。友だちとのより良い関係があることで、児童は自分らしく毎日生活するために友だちの良さを認め合える関係ができるように支援していきたいと思います。

⑨早寝早起きをしている。



児童70.1%（34.9%, 35.2%）, 保護者62%（22.4%, 39.6%）, 教職員93.3%（33.3% 60%）でした。早寝・早起きは前期よりも数%3者とも下がっています。前期は学校再開直後だったこともあり、緊張と意識もあったと思われますが、後期に入り慣れと日々の習い事等でやはり現実に結びつかないことが多いのが分かります。朝の登校時の児童の様子からは、眠さを引きずっているようではなく、元気に来ています。児童の結果を学年別で見ると、早寝早起きができないと回答している1年生は15%程度ですが、2年生以上が30%を超えていました。6年生に至っては、37%と4割近くになっています。引き続き教職員は、日々の声かけとなぜ睡眠が大切なのかを伝えることで、児童に支援しています。児童の健康な毎日のために、規則正しい生活が継続できますようご協力をお願いします。

⑬PTA行事や地域の行事には、楽しみにしていることがある。



児童80.7%（60.7%，20.5%），保護者56.1%（10.7%，45.4%），教職員80%（13.3%，66.7%）でした。後期になり、地域の各団体の方々が今年度の状況と相談しながら、できる方法を考えていただいている。多くの児童は、地域やPTA行事を楽しみにしています。夏祭りや地域の運動会に参加していた児童は本当に楽しそうで、地域の温かさを感じることができました。年末に計画していただいているイベントの中止には本当に残念だったという児童の声をたくさん聞きました。児童は、地域・PTAなどたくさんの方にお世話になって健やかに育ててもらっています。教職員は、引き続き参加を促す声かけとともに、地域・PTAなどたくさんの方に見守られていることを伝えています。

その他実現度の全般から

児童・保護者・教職員の3者の実現度から、前期からの課題である項目の「④読書について」の変化を見ました。低学年・中学年は約80%の児童がおおむねできると回答しています。しかし、高学年の結果が少なく50%程度の回答でした。日々の課題に取り組むことを優先すると、物語を読むことよりも、調べ学習で本を活用することが多くなっていることも読み取れます。図書館の利用からみると、決して少ないわけではなく、利用の目的が変わっていることが分かります。本に親しむという観点から、今後も児童には支援を続けていきます。「活字離れ」や「心の豊かさ」についても各教科の学習に絡めたり、読書週間のイベントなどを活用したりすることで培っていきたいと思います。児童が読書をすることに抵抗なく、楽しんで読む習慣が身につくように今後も支援していきます。

重要度と実現度の結果から

今年度の問い合わせ「ご自身はどうか」という文面から自分自身を振り返る形で回答いただいている。前期同様どの項目も重要度の「重要である」と答えがすべての項目でおよそ8割程度が重要であると回答しています。実現度の中で保護者の回答の「子どもは楽しく学校に通っている」のよくできているが53.1%と高い数値であることが嬉しい結果です。その他は「大体できている」と合わせて8割程度となっています。新しい生活様式がある中で、どの項目も児童にとって必要であるという意識をもつてもらっていると感じます。今後も、実現度を高めていき、満足のある生活が送れるように取組を充実させ、子どもたちの姿の変容をめざします。

児童のアンケートは実現度のみの回答となっていますが、児童・保護者・教職員の3者で合わせてみた場合、やはり前期同様「読書」「早寝・早起き」が課題としてとらえられます。課題を解決していくための具体策を教職員で考え、発信していくことで良い方向に導いていきたいと考えています。今後も家庭・地域・学校と子どもたちの様子をよりたくさんの大の目で見守りながら、温かく支援していきたいと思います。引き続きご協力をお願いします。